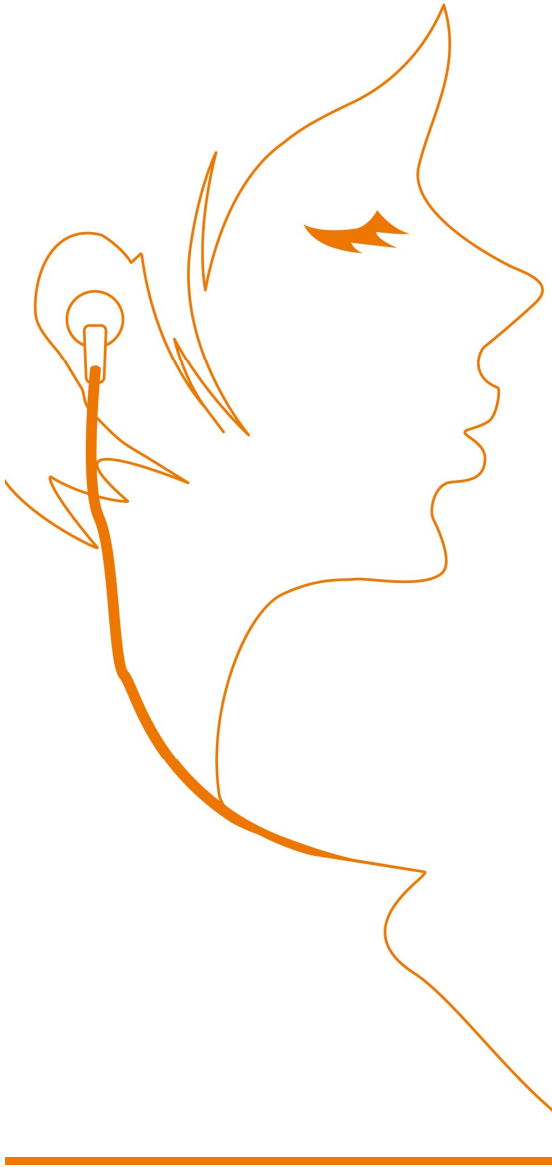
Since2006



すべての映像メディアに音声ガイドと日本語字幕を

「CAPシネマ･スタディ2019」
―事業報告書―

CAP
Cinema Access Partners
特定非営利活動法人
シネマ・アクセス・パートナーズ

「CAPシネマ・スタディ2019」事業報告書

[目的]　当法人では、音声ガイドを制作するだけでなく、皆さんに"映画館で"映画鑑賞する楽しさを知っていただく機会を作りたいと考えています。
視覚障がい者の方と一緒に映画を楽しむためには、まず安全を確保しなければなりません。
暗い中での誘導、幅の違う段差の昇降、座席指定の方法、お手洗いの中の誘導、混雑した中コンセッションでの買物など、、、。
見える人と見えない人が、気軽に友人・知人同士で映画館へ出掛けられるように、晴眼者の側が知っておくべき約束事があります。その約束事についての基礎知識をプロから学び、実践を通じて得られたことを冊子にまとめ、関係者に配布します。

[内容]　NPO法人アイ・サポート様に視覚障がい者の誘導についてご指導いただき、
TOHOシネマズ日本橋様のご協力のもと、映画館内の誘導と映画鑑賞を実践しました。

[実施までの打合せ]

2019年 5月21日＠NPO法人アイ・サポート 「講習会のおおまかな内容やスケジュールなど」
7月18日＠NPO法人アイ・サポート 「実施日程・曜日、参加者、会場についてなど」
8月27日＠NPO法人アイ・サポート 「ハンドブック(教材)の内容についてなど」
10月　1日＠NPO法人アイ・サポート 「ハンドブック内容確認、映画館との確認事項など」
10月18日＠TOHOシネマズ日本橋　「実施日決定、施設内および導線確認など」
11月19日＠NPO法人アイ・サポート 「実施日タイムスケジュールなど」

「CAPシネマ・スタディ2019」事業報告書

[実施日時]

2019年12月12日（木） 9時45分～16時30分 座学・練習 会場：東京都障害者福祉会館
12月13日（金）10時00分～17時00分 実践 会場：TOHOシネマズ日本橋

[当日スケジュール]

1日目	**10:00**	**12:00**	**13:00**	**16:00**	**16:30**
	集合・講習開始	**昼食・休憩**	**講習**	**質疑応答・翌日説明**	**解散**

2日目	**10:00**	**11:30まで**	**11:45**	**12:45**	**15:30**	**17:00**
	集合	**映画館内講習**	**モニターと集合、実践開始**	**映画鑑賞**	**意見交換会**	**解散**

※2日目実践編の詳細は、次ページに

[参加者]

1日目 受講者 7名、 NPO法人アイ・サポート様 4名、 主催者（CAP） 2名 計13名
2日目 受講者 7名、 モニター 7名、 NPO法人アイ・サポート様 4名（兼モニター1名）、 主催者（CAP） 2名 計19名

©2016Cinema Access Partners

「CAPシネマ・スタディ2019」事業報告書

CAPシネマ・スタディ2019　２日目　（実践編）

13日 金	9	10	11	12	13	14	15	16	17

※　上映開始時間　12時45分～　SC No.7
『屍人荘の殺人』

・参加人数：視覚障がい者　7名　他12名　計19名

・12月9日までに、上映時間の確認
・新聞記者招待人数の報告（12月9日）⇒なし
・年内　事業報告書を提出

10時00分
モニター以外集合

「三越前」A6出口最寄り改札

10時10分
TOHOｼﾈﾏｽﾞ日本橋着

11時15分まで
入場口より手前の導線確認、ｼﾐｭﾚｰｼｮﾝ

11時20分～11時30分
SC No.5内の確認

11時35分　駅へ移動

11時45分　モニターと集合「三越前」改札

11時55分　TOHOシネマズ日本橋到着　"開始"

12時25分～30分　入場口(15分前)

12時45分　映画鑑賞

15時すぎ　鑑賞後ロビー集合

15時15分　ｴﾒ･ｳﾞｨﾍﾞｰﾙへ移動

15時30分　意見交換

17時00分解散
地下鉄、JR神田それぞれへお送り

※開始から鑑賞終了まで
受講者(晴眼者)と視覚障がい者モニターのペア
7組が、それぞれで行動する。
・ペアの発表は、当日
・受講者は、行動計画を考えておく
・トイレ誘導、コンセッションでの買物は必須
（相手が異性の場合のトイレ誘導は映画館スタッフに）
・チケット購入は、有人でも券売機でも可
・大きな荷物は映画館に預けることも可能

「CAPシネマ・スタディ2019」事業報告書

[意見交換会]

2019年12月13日（金） 15時30分～17時00分

参加者： 受講者 7名、 視覚障がい者モニター 7名、
NPO法人アイ・サポート様 4名(兼モニター1名)、 主催者（CAP） 2名 計19名

[誘導全般]

・今回講習を受けなければ、知り得なかったことがたくさんあった。講習内容はすべて勉強になった。（受講者）
・映画館の狭い場所での誘導や、前席の背もたれを確認してもらうことなど、知っていたら役に立つことが多かった。（受講者）
・実際に、誘導される側になってみることで、何を、どのタイミングで伝えるべきなのかを身をもって知ることができた。（受講者）
・正面に立って声をかけるなど、「基本動作」には、それぞれ意味があり、講習を受けて納得することばかりだった。（受講者）
・自分の腕や次に向かうための動作のひとつひとつが、敏感に相手に伝わることとその大切さを実感した。（受講者）
・実践で、ペアになった方が、いつもと違う誘導に多少戸惑われていたが、今後も基本を忘れずに臨機応変に誘導したい。（受講者）
・狭いエスカレーターや、狭い道の誘導など、注意すべきことや自分が確認すること、相手に確認してもらうことなどが、こんなにも多いと認識させられ、一方でたいへん勉強になった。（受講者）
・駅から映画を観るまでの誘導があることで、より映画鑑賞を楽しむことができたと思う。（モニター）
・映画鑑賞だけでなく、映画館内やグッズ、他の映画の説明やたわいのないおしゃべりも楽しめた。（モニター）
・一人で映画館に行くこともあるが、映画上映が始まるまでの時間をあえて持たないようにして、すぐに映画を観るような時間設定にすることが多い。今回は、映画前の時間も有意義に感じられた。（モニター）
・普段、映画館で飲食することがないので、いい経験となった。（モニター）
・ペアの方の緊張感が伝わってきたが、次第に自然に誘導してもらえ、安心感につながった。（モニター）
・スマートな誘導で、映画も十分楽しむことができた。（モニター・複数）
・弱視の人もいるので、個人差をみきわめること。ケースバイケースの誘導が大事だと思う。（モニター）
・知識と実践とは違うと感じた。（受講者）

「CAPシネマ・スタディ2019」事業報告書

[誘導全般つづき]

・誘導する側の自分もトイレを利用する場合、「トイレの中（個室）で待っていてください」は、焦らず安心できてよい。（受講者）
・「トイレの中（個室）で待っていてください」は初めて言われたがよいと思う。（モニター）
・トイレ内で「呼び出しボタンはここですが、間違って押さないでください」は、よかった。（モニター）
・トイレ内の呼び出しボタンを敢えて説明しなかった。そのほうが間違って押すこともないかもしれない。（受講者）
・壁に寄りかからせてくれたり、質問にもよく対応してくれて安心できた。（モニター）
・どのような誘導をしてほしいか、自分から伝えることが大事だと思った。（モニター）
・「そうしないで欲しい」「やりにくい」といったことを言って欲しい。（受講者）
・「大丈夫」「必要ない」と言われても、見守ることも大事です。（講師）

[映画館内]

・想像以上に、ドリンク、スナック、軽食など種類が充実しており、目移りするほど豊富だった。（モニター）
・コンセッションのメニューが複雑で説明しにくかった。（受講者）
・コンセッションで買ったものを取り置きできたので、できたてをもらえた。（受講者）
・コンセッションで、「場合によっては席にもお持ちします」と言ってくれた。（受講者）
・レジが、「現金払い」専用と「クレジット・キャッシュレス払い」専用に分かれていたことに気付きにくかった。（受講者）
・ロビーで食事をしようと思ったが、座れるところが少なかった。（受講者）
・トイレも不便に感じることなく、使いやすかった。（モニター）
・男性用トイレのそばに、男性スタッフがいてくれると助かる。（受講者・女性）
・前後の座席がゆったりしていて、窮屈感を感じなかった。（モニター）
・荷物や杖などを預かってもらえることはうれしい。スタッフの方に親切に対応していただいた。（モニター）
・スクリーンに、非常口の案内が出たが、映像だけでなく音声で説明も付くとよいと思った。（受講者）

「CAPシネマ・スタディ2019」事業報告書

[その他]

・困っていなくても、可能であれば映画館のスタッフの方に声をかけて欲しい。他のお客様の動線をふさぐことなく、また次の動作へすぐに移れるので助かります。（モニター）

・映画館のスタッフがチケット購入から帰りまでフォローしてくれるなら一人で行きたい。（モニター）

・段差での事故は意外と少ない。（モニター）

［まとめ］

映画は誰でも気軽に楽しめるエンターテインメントのひとつです。アプリで提供される音声ガイドも増えてきました。映画館は商業施設の中や隣接していることが多く、視覚障がいのある方と同伴者が、外出を楽しむには最適と言えるでしょう。今回は、テストケースということで、受講者に誘導未体験者はおらず、視覚障がい者モニターも映画館で映画鑑賞経験のある方ばかりでしたが、今後は、対象者を広げ、たくさんの方々に安心・安全な映画鑑賞を体験し学んでいただければと思います。

まずは、NPO法人アイ・サポート様の作成してくださったハンドブックを元に、皆様からいただいたご意見も踏まえ、CAPのオススメを中心にした冊子を完成させます。

最後になりますが、実践的な指導法で講師を務めてくださったNPO法人アイ・サポートの皆様と、快く講習の場を提供してくださったTOHOシネマズ日本橋様に、心から御礼申し上げます。

以上